

放課後等デイサービスガイドライン自己評価表

回答率

事業所職員： 4名回答、回答率 100%
保護者様： 19名回答、回答率 86%

職員の意見

○環境・体制整備

- ・法令上の人員基準は満たしているものの、送迎や自己入室を受け入れるための職員数が限られてしまうことがあるため、送迎の調整や配置の工夫の検討は必要である。
- ・子ども用のロッカーが狭い場所に配置されており、子どもの来退室時に周辺力所の混雑が見られていたため、子どもの安全に配慮してより広い場所へロッカーを移動し、スムーズな動線の確保に努めた。

○業務改善

- ・前回の評価において、「祝日等の外出を増やしてほしい」とのご希望があったこともあり、新型コロナの5類移行に伴って、課外活動の企画を作成し、実行に移すことが出来た。
- ・管理者・責任者は毎月、常勤指導員も年間を通して複数の研修に参加することで、支援の向上に努め、定期的虐待防止研修を行うなど、自分たちの指導の振り返りと資質の向上を図っている。

○適切な支援の提供

- ・月間の活動カレンダーを作成する際には、その月の療育テーマに即した内容や実施日について話し合う機会を設けている。
- ・長期休暇や祝日など支援開始前にミーティングをおこなうことが難しい場合は、前日や当日夜に子どもや活動について話をしている。また支援終了後にミーティングを行えない場合は、記録作成の際にその日のことを情報共有している。

○関係機関や保護者との連携

- ・下校時刻が学年によって違うことがあるので、学校から直接共有されていないすべての利用者の方から下校時刻を確認するようになっている必要がある。

○保護者への説明責任等

- ・送迎時当日の出来事を説明したり、定期的に家庭連携を行なってご家族と密にコミュニケーションがとれている。

○非常時等の対応

- ・毎月テーマや曜日を変えて防災訓練を実施しており、全ての生徒が訓練に参加し、防災意識を高め災害への心構えをもてるよう取り組んでいる。

保護者様のご意見

○環境・体制整備

- ・多くの項目で「はい」のご回答をいただいているが、「職員の配置数」に関しては3割の方から「どちらともいえない」との答えをいただいた。

○適切な支援の提供

- ・「障害のない子供との関わり」では「はい」の回答が多く、中には、「そうしたかかわりを特に希望しません」とのご意見も戴いた。

○保護者への説明等

- ・「子どもの状況」「育児の助言」「保護者との意思疎通」等の項目では全ての保護者様より「はい」のご回答をいただけた。
- ・「会報やホームページ」の項目では3割ほどが「どちらでもない」を選択しており、「ホームページを見たことがない」とのご回答をいただいた。

○非常時等の対応

- ・非常時の対応についての質問では、8割の方から「はい」とのご回答をしていただいたが、「どちらでもない」という回答も一定数いただいた。

○満足度

- ・満足度に関しては、8割の利用者から「学校外の友達に会えることが楽しみ」などのご意見ご回答をいただいた。また9割の保護者の方から「いろんな経験をさせてもらっている」と満足度の高い結果をいただいた。

昨年度の振り返り

○今年度の取り組む具体策

- ・コロナ禍でも保護者同士の連携を図り、子育ての不安やポイントについて共有できるよう、オンラインでの保護者会開催を計画していく。
- ・年度の始めのニュースレターの通信欄を用いてスタッフの自己紹介を写真とともに掲載していく。
- ・感染対策を留意したうえで、近隣の施設を活用した外出プログラムを企画する。
- ・区の連絡会などに積極的に参加し、地域の施設と連携が図れるよう情報交換を行う。

○改善できた点・まだ残る課題

- ・ニュースレターや送迎時の対話を通してスタッフ紹介を行ない、保護者に周知してもらえた。
- ・新型コロナの5類移行に伴い、外出企画を作成・実施することが出来た。
- ・送迎等により区の連絡会への参加は難しく、保護者会についても開催までは実現が難しかった。今後は、短時間でも地域連絡会に参加することで、地域との関わりを増やしていくとともに、実現が難しかった保護者同士での連携が図れる様保護者会の実施を行いたい。

アンケート結果からみる教室の強み・改善点

○教室の強み

- ・子どもやご家庭のニーズを踏まえた個別支援計画を遅延・漏れのないよう作成し、計画に基づいた支援を全ての職員が行うことができ、ご家庭からも評価していただいている。
- ・送迎時の家庭連携等を通じて、教室での様子を詳しく伝え情報共有をしたり、保護者の方に子育てに関する助言を行うことが出来ている。

○改善点

- ・新型コロナにより長く保護者会を行う事ができず、家庭同士の連携について支援することが難しかった為、今後は保護者会の開催など家族同士の連携についても教室として取り組んでいく必要がある。
- ・会報やホームページに目を通されることが少なかったり、防災対策についての周知不足が見られることから、ニュースレターやブログを通して、教室内の活動をより知ってもらえる努力が必要がある。
- ・障害のない子どもや地域の方々との交流が少ない為、少しずつでも地域とのかかわりが増やせるように近隣の公共施設を活用した活動などを増やしていく。

中長期的な改善計画・1年間で取り組む具体策

○中長期的な改善計画

- ・保護者同士の横のつながり作りなど、直接支援以外の家族支援についても力を入れていく。
- ・教室での活動などを今まで以上に周知されるように、情報発信に力を入れていく。
- ・地域に開かれた事業所の運営を目指していく。

○1年間で取り組む具体策

- ・新型コロナの5類移行に伴い、オンライン環境の整っていないご家庭も含めての保護者会開催が可能となった。そこで、次年度は平日午前中に時間を設け、参加者を募っての年に1度は保護者会を開催する。
- ・毎月発行しているニュースレターに、翌月の活動予定や連絡事項だけでなく、防災訓練を含めた教室での活動の様子などを載せ、月1回を目安にブログを更新し、教室での様子などを広く情報を発信し様々な媒体で教室について知っていただける機会を増やす。
- ・近隣の公共施設を活用した課外活動を祝日・長期休みなどに企画実行する。
また、近辺エリアの教室と連携した活動をプログラムを実施し、事業所以外の生徒と関わる機会を増やしていく。